

日本人「空気読み過ぎ」

摘した。中台関係については、仏教という共通の信仰心を持つは戦争は回避できるはずだと語った。

橋本住職は、釈氏が台湾で旅行会社やテレビ関連の企業を立ち上げ成功させたものの、全てを捨てて仏門に入り、一切衆生のために生きる姿勢に感銘を受けたと紹介した。「今後も国境を超え、仏教の国際交流に尽力したい」とも語り、すでにミャンマーの僧侶とも交流を始めたことを明かした。

説法を聞いた埼玉県在住の中国籍の50代女性は「言葉の一つ一つが身に染みわたった。中国や台湾では、彼に会うことはなかなかできない。こんな貴重な機会に巡り合えて幸運だった」と語った。

用語解説

▼性的少数者
性的指向や性自認のあり方が、多数派とは異なる人々。このうちレズビアン（女性の同性愛者）、ゲイ（男性の同性愛者）、バイセクシュアル（両性愛者）、トランスジェンダー（身体の性に違和感を持つ人の英語の頭文字を取ったのがLGBTで、クエスチョニング（探している人）を加えてLGBTQと呼ばれることがある。



来日した海濤法師（左）と橋本住職

台湾・海濤法師が来日、説法

曹洞宗見性院

台湾の僧侶で世界各地に信者を持つ釈海濤氏（64）が来日し、1日、曹洞宗見性院（埼玉県熊谷市）で橋本英樹住職を進行役に説法を行った。日本人に対して「空気を読み過ぎる」と指摘したほか、緊迫する中台関係についても持論を述べた。

橋本住職の知人を通して訪れた。

釈氏は35歳の時、母親の病気を機に仏門に帰依した経歴を述べ、「信仰を持つことは信念を持つことであり、自分を救う唯一の方法は他人を救うこと」と説いた。また、信仰や価値観の多様性を認め合う姿勢こそ平和につながることを強調した。

釈氏は1958年6月、台湾・高雄生まれ。海濤法師と呼ばれ、中国にも熱烈な信者がいる。天台宗系の法脈を継いでいるが、特定の宗派に属さず超宗派・超宗教で世界各地を行脚し、自坊もない。30年前から10回以上来日しており、今回

台湾が同性婚を認めるなど性的少数者用語解説に理解を示すのは、信仰心の強さと関連するとの考えを示した。日本人については「周りの空気を読む人が多いように思う。自分の心に正直になることが第一に捉えれば、本当の自分自身を表現できるのでは」と指

2023年（令和5年）5月19日 金曜日